

ジオパーク関連施設が周辺地域の観光にもたらす効果

— 福井県立恐竜博物館の事例 —

Effects of a Related Facility to a Geopark on Tourism in Its Surrounding Area :
A Case Study on Fukui Prefectural Dinosaurs Museum

助重雄久・恐竜博物館観光調査グループ

SUKESHIGE Takehisa, The Research Group on Tourism in Dinosaurs Museum

本研究の目的は、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク地域内にある福井県立恐竜博物館が、周辺地域の観光にどのような効果を及ぼしているのかを分析することである。分析にあたっては来館者にアンケート調査を実施して観光行動を把握した。その結果、来館者の半数が日帰り、宿泊するとしても勝山市内には泊まらないこと、来館者の約3分の1は恐竜博物館以外の観光地に立ち寄らないこと、お土産も恐竜博物館でしか買わないことが明らかになった。恐竜博物館の館内には物販・飲食施設があるため、観光行動が館内で完結してしまうことが地域に間接的な経済効果をもたらさない要因となっている。こうした状況を脱するためには、博物館自体が全てを抱え込むのではなく、「地域を紹介し、地域をつなぐ」インフォメーション・センターの役割を果たしていく必要があるといえよう。

キーワード：ジオパーク、恐竜博物館、観光、経済効果、福井県

I はじめに

ジオパークは科学的・文化的に貴重な地質遺産を含む自然公園である。認定地域では、地域の地史や地質現象を示す地質遺産を保全し、地球科学や環境問題の教育・普及活動を行う。また、観光資源として地域活性化にも貢献し、持続的な経済発展を図る役割も期待されている¹⁾。より平易に言えば、ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所、山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所である²⁾。

2004年には、ユネスコの支援により「世界ジオパークネットワーク」(GGN)が発足し、ジオパークを審査、認証する仕組みができあがった。日本では2008年に認定機関である「日本ジオパーク委員会」(JGC)が組織され、同年に認定された7地域によって、2009年に「日本ジオパークネットワーク」(JGN)が設立された。その後、日本ジオパークには、2009年に4地域、2010年に3地域、2011年に6地域、2012年に5地域、2013年に8地域が加盟し、33地域となった³⁾。また世界ジオパークには、2009年に加盟した洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島に加え、山陰海岸(2010年10月加盟)、室戸(2011年9月加盟)、隠岐(2013年9月加盟)の6地域が認定されている。

新潟を含む北陸地方では、国際的な動きに先がけて独自のジオパーク活動を進めてきた糸魚川地域が、2008年に最初の日本ジオパークの一つに認定され、翌年には世界ジオパークにも認定さ

れた。また、2009年には恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク、2011年には白山手取川ジオパークが認定された。唯一ジオパークがなかった富山県でも、2013年12月に立山黒部ジオパーク推進協議会が設立され、2014年8月の認定を目指している。一方、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、2013年12月16日の第19回ジオパーク委員会で行われた再認定審査の結果、「勝山市のまちづくりの中でのジオパークの位置づけや、市が進めるエコミュージアムとの関係が不明確なこと」を理由にジオパーク初の条件付き再認定となり⁴⁾、福井県立恐竜博物館を含めた地域の各種資源を勝山市民がジオパークでどのように活かすかを市民、市、県などで十分に話し合うことが求められた⁵⁾。

本研究の目的は、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク地域内に位置する福井県立恐竜博物館(以下「恐竜博物館」と称す)が、周辺地域の観光にどのような効果をもたらしているのかを検討・分析することである。検討・分析にあたっては恐竜博物館の来館者を対象としたアンケート調査を実施し、勝山市周辺や近隣県においてどのような観光行動をとっているのかを把握した。

公共文化施設の経済効果に関する先行研究としては、滋賀県立琵琶湖博物館が建設・運営に見合う便益を社会に提供しているかどうかを分析した中澤(2000)⁶⁾、観光・イベント客の消費額や事業経費だけではなく、イベントや活動を契機に創出される中長期的な需要も含めた美術館の地域活性化効果を分析した筒井(2012)がみられる⁷⁾。恐竜博物館に関しては、財務省北陸財務局が2010年7月に「入館者数が2009年度(43.9万人)より20%増え、県外から来た観光客の県内宿泊率が5ポイント高まれば、入館料や交通・宿泊費などの直接効果が約10億円、雇用・所得の増加による消費拡大に伴う間接効果が約5億円生じる」という試算を発表した⁸⁾。しかし、これらはいずれも経済的な手法によって金額を試算したものである。これに対して本研究では、来館者がどんな場所に立ち寄るか、どこに泊まるか、といった点を地理学的側面から分析する点に特徴が見出せる。

II 恐竜博物館および周辺地域の概要

1. 恐竜博物館の設置経緯と概要

勝山市では、1982年に北谷町の手取層群で中生代白亜紀前期のワニの全身骨格化石が発見された。さらに1988年には小型肉食恐竜の歯が発見された。1989年からは福井県の恐竜化石発掘調査事業によって、学術的に貴重な恐竜化石が数多く発見されており、これまでにフクイラプトル、



図1 福井県立恐竜博物館の展示室

(助重撮影)

フクイサウルスの全身骨格が復元されたのをはじめ、恐竜の卵や幼体の骨、足跡化石なども発見された⁹⁾。

相次ぐ恐竜化石の発見により、勝山市では恐竜博物館を建設しようという気運が高まり、長尾山公園内で2000年夏に開催された「恐竜エキスポふくい2000」のメイン会場として、同年7月に博物館が開館した。恐竜博物館は恐竜に関する国内最大級の博物館で、柱のないドームの内部にある面積4,500m²の展示室は「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の3つのゾーンから構成されている。展示室内では、40体以上もの恐竜骨格をはじめとして、千数百もの標本、大型復元ジオラマや映像などを観覧できる(図1)¹⁰⁾。

恐竜博物館の年間入館者数は2010～2012年度にかけて50万人台前半で推移していたが、博物館でロケが行われた「劇場版 獣電戦隊キョウリュウジャー ガブリンチョ・オブ・ミュージック」の効果もあって、2012年12月～2014年2月にかけては月別入館者数が15か月連続で前年度同月を上回った。この結果、2013年度の入館者数は2月末までで655,557人となり、過去最高の700,237人まで、あと40,553人に迫っている¹¹⁾。

2. 周辺地域の概要

勝山市は、福井県東北部の九頭竜川中流域に位置しており、大野市、福井市、坂井市、吉田郡永平寺町、石川県の加賀市、小松市、白山市に隣接している(図2)。周辺は1,000m級の山々に囲まれており、市域の東部には西日本の日本海側では最大の規模を誇るスキー場「スキージャム勝山」が1993年に開設された。

市街地は福井市中心部から東に約28km、九頭竜川の流れて形成された河岸段丘上に位置している。基幹産業である繊維産業は海外との厳しい競争にさらされて衰退傾向にあり、1970年の国勢調査では32,691人であった人口も、2010年には25,471人に減少した。

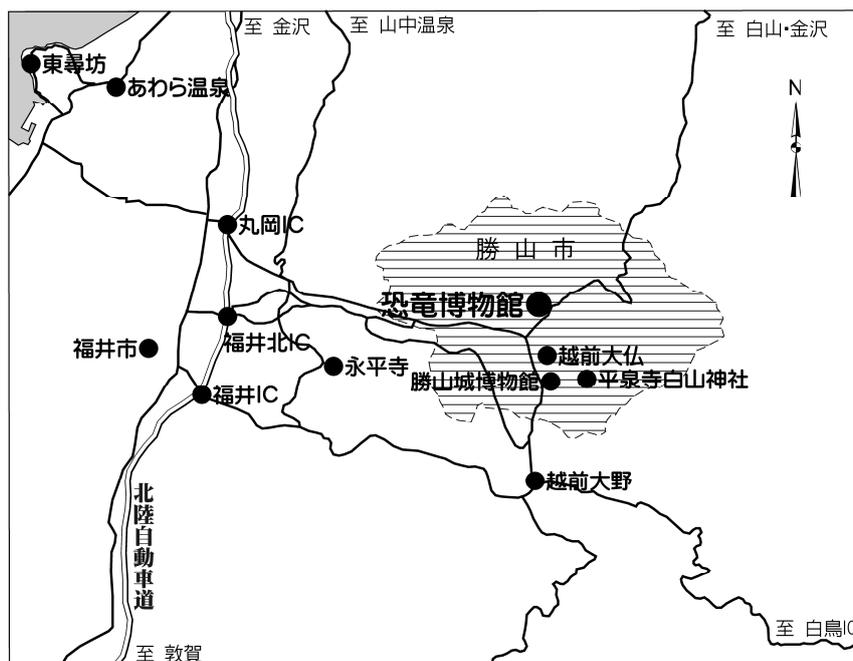


図2 恐竜博物館周辺の地域概要

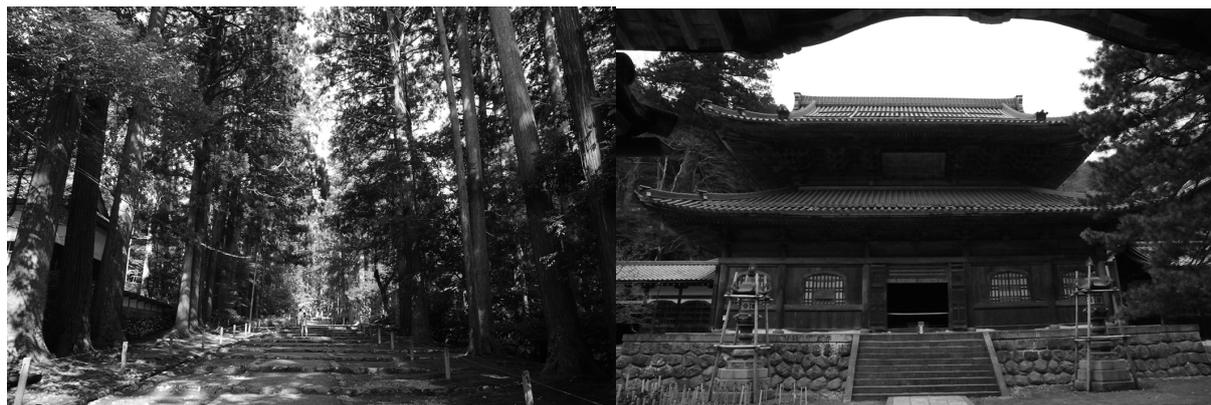


図3 平泉寺白山神社の石畳
(助重撮影)

図4 永平寺
(助重撮影)

2005年国勢調査における平均年齢は47.5歳で、福井県の市のなかではもっとも高かった。恐竜博物館は勝山市の中央部に位置しており、その南には勝山市街地の古い町並みや、日本一の高さを誇る五重塔や大仏殿がある越前大仏清大寺、勝山城博物館、石畳の参道が「日本の道百選」に選ばれている平泉寺白山神社などの観光資源がある(図3)。

東南隣の大野市には400年を超える歴史がある城下町の町並み、西南隣の永平寺町には、道元禅師が坐禅修行の道場として創建した曹洞宗の本山・永平寺がある(図4)。また、九頭竜川右岸の県道を西に向かい、北陸自動車道の丸岡ICを越えてさらに九頭竜川右岸を進むと、1時間ほどで三国湊やあわら温泉、東尋坊に到達する。

恐竜博物館の近くから国道157号を北上すると、白山スーパー林道や金沢市方面に向かうことができる。また、丸岡ICに向かう県道の途中から国道364号を北上すると、加賀温泉郷の山中温泉、山代温泉に到達することができる。

Ⅲ 恐竜博物館における観光動向調査とその結果

1. 調査の目的および方法

本研究では、恐竜博物館の来館者が勝山近辺や福井県、近隣県においてどのような観光行動をとっているのかを把握するためにアンケート調査を実施した。調査は2013年11月3日(土)～4日(日)に長尾山公園内の恐竜博物館駐車場とその周辺で実施した。調査対象者は、博物館に来館した観光客から無作為に選び、調査票の質問項目に基づいて調査者が直接対象者に質問する方法で実施した。対象者が夫婦・カップルや、家族連れ、グループの場合は、代表者1名に回答してもらった。質問項目は表1に示したとおりである。

2. 調査結果

1) 対象者の基本属性(性別・年齢別・同伴者)

調査対象者は389名で、男女別では男性が206名(53.0%)、女性が183名(47.0%)であった。年齢別では20代未満9名(2.3%)、20歳代59名(15.2%)、30歳代138名(35.5%)、40歳代83名

表1 アンケートに用いた調査票(おもて面)

勝山市および周辺の観光に関する聴きとり調査 調査日__日 担当__班 整理番号__

1.お住まいはどちらですか？

- a. 県外…都道府県名 [] b. 県内…市町村名 [] c. 国外…国名 []

2.勝山に来るのに利用した交通手段(遠方からの場合、空港や JR 駅からの交通手段)を教えてください。

- a. 自家用車 b. レンタカー c. 観光バス(団体貸切) d. 観光バス(パケットツアー)
e. えちぜん鉄道+コミュニティバス f. バイク g. その他 []

3.自家用車・バイクで来られた方にお尋ねします。 a.勝山に来る時と b.勝山から次の観光地に向かう(または帰宅する)時に利用するルートを裏の図の①～⑦から選んでください。

- a. 来る時 [] b. 他の観光地に向かう(または自宅に帰る)時 []

4.自家用車・バイクで来られた方にお尋ねします。 福井県で給油されましたか(今から給油する場合も含む)？

- a. はい b. いいえ →「はい」の場合 [ハイオク ・ レギュラー ・ 軽油] 概算の給油量 []L

5.今回の旅にはどなたと何人で来られましたか？(人数にはご自分も含まます)

- a. ひとり旅 b. 夫婦・カップル c. 家族と []人 d. 女子会・同窓会 []人
e. 同好会・サークル・部活動 []人 f. その他のグループ、団体等 []人

6.今回の旅は何泊のご予定ですか？宿泊される場合は宿泊料の総額、宿泊地、宿泊手段も教えてください。

- [泊数] a. 日帰り b. 宿泊 []泊 [宿泊料の総額] 大人1人あたり約 []円

[宿泊地](宿泊地が2か所以上ある場合は、すべての宿泊地に○をつけてください)

- a. 勝山市内 b. 越前大野 c. 福井市内 d. 三国・あわら温泉 e. 越前海岸
f. 福井県内他地域または県外 地域名 []

- [予約手段] a. 電話・FAXで宿に直接 b. 観光協会・旅館組合の紹介 c. 旅行会社の窓口で
d. 宿のホームページから e. 大手旅行予約サイト(楽天・じゃらん等)から
f. その他 []

7.恐竜博物館に来たのは何回目ですか？2回目以上の方は再訪した理由も教えてください。

- a. はじめて b. 2回以上 →再訪理由 []

8.今回の旅の計画は、何を利用してたてましたか？(該当するものにいくつでも○)

- a. 旅行雑誌(るぶ、ことりっぶ等) b. 観光パンフレット・マップ c. 観光協会・観光施設等のHP
d. 旅行会社・予約サイトのHP e. 知人からの口コミ f. 個人(旅行者)のブログやSNS
g. その他 []

9.上記のうち恐竜博物館については、何で知りましたか？ →記号 []

10.今回の旅で恐竜博物館以外には、どこに立ち寄ります(ました)か？《いくつでも回答可》

- a. 越前大仏 b. 勝山城 c. 平泉寺白山神社 d. 勝山市街 e. 越前大野 f. 永平寺
g. 丸岡城 h. 一乗谷朝倉氏遺跡 i. 三国湊 j. 東尋坊 k. 越前松島水族館
l. あわら温泉 m. 芝政ワールド n. 越前海岸 o. 敦賀(気比神社、赤レンガ倉庫等)
p. 三方五湖 q. 山中温泉(こおろぎ橋等) r. 那谷寺 s. 白山ろく・スーパー林道
t. 金沢(兼六園等) u. その他 [] v. 恐竜博物館のみ

11.おみやげは上記のうち、どの観光地で買う予定ですか？(既に行った場合も含む)

- 記号 [] 上記以外(駅、SA等) []

- [年齢] a. 20歳未満 b. 20歳代 c. 30歳代 d. 40歳代 e. 50歳代 f. 60歳代以上

[性別] a. 男 b. 女

ご回答いただきありがとうございます。

(21.3%)、50歳代 36名(9.3%)、60歳以上 64名(16.5%)で、30～40歳代が全体の56.8%を占めた。これは、家族連れの父親または母親が回答した場合が多かったためと考えられる。

同伴者の属性別でみると、家族連れが271名(69.7%)で圧倒的に多く、以下は夫婦・カップル58名(14.9%)、グループ53名(13.6%)、ひとり旅6名(1.5%)、無回答1名(0.3%)であった。

2) 居住地の分布

来館者の居住地を都道府県別にみると、愛知県が85名(21.9%)でもっとも多く、以下10位までは、石川県46名(11.8%)、福井県内43名(11.1%)、大阪府32名(8.2%)、兵庫県26名(6.7%)、滋賀県25名(6.4%)、京都府22名(5.7%)、富山県19名(4.9%)、岐阜県16名(4.1%)、東京都14名(3.6%)の順であった。図5をみてもわかるように、アンケートの対象となった来館者の86.4%は東海・北陸・近畿地方に居住しており、北海道と九州からの来訪者はいなかった。

3) 利用交通手段

勝山に来るのに利用した交通手段(遠方から来た場合はJR駅や空港からの交通手段)は、自家用車が335名(86.1%)で他を圧倒しており、以下はえちぜん鉄道+コミュニティバス18名(4.6%)、観光バス(団体貸切)14名(3.6%)、レンタカー11名(2.8%)、観光バス(パッケージツアー)5名(1.3%)、バイクとその他が各3名(0.8%)の順であった(図6)。北陸・東海・近畿地方に居住している336名のうち301名(89.6%)は自家用車で来館していた。

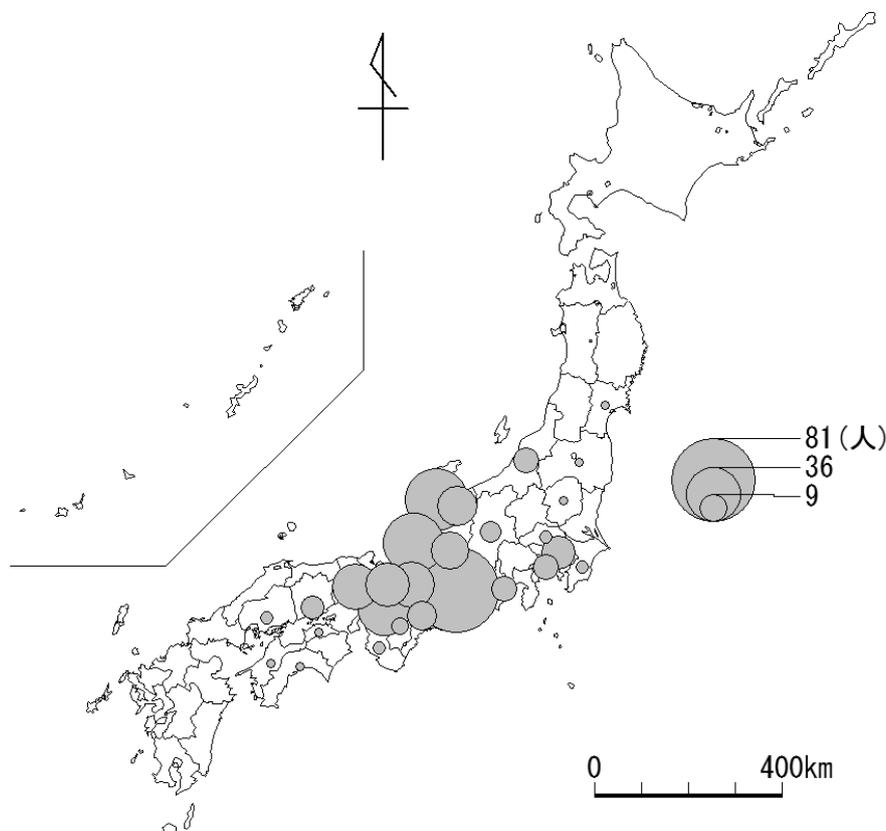


図5 アンケート対象者の居住地

(アンケート調査をもとに作成)

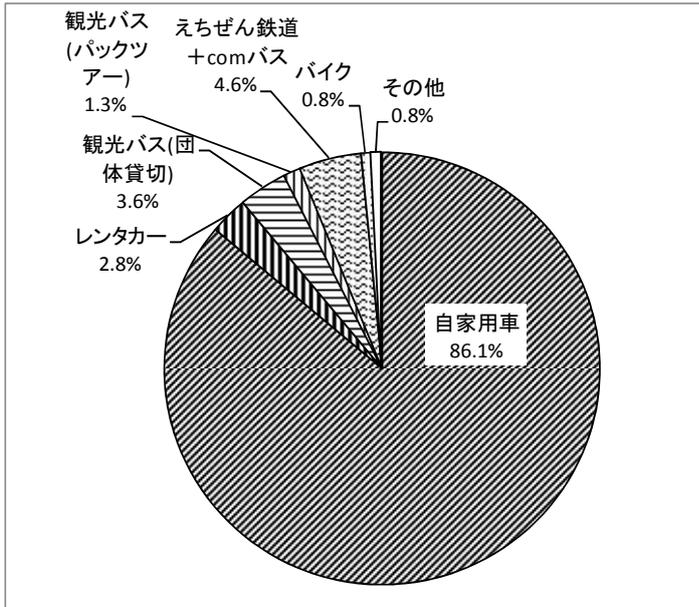


図6 アンケート対象者の居住地
(アンケート調査をもとに作成)

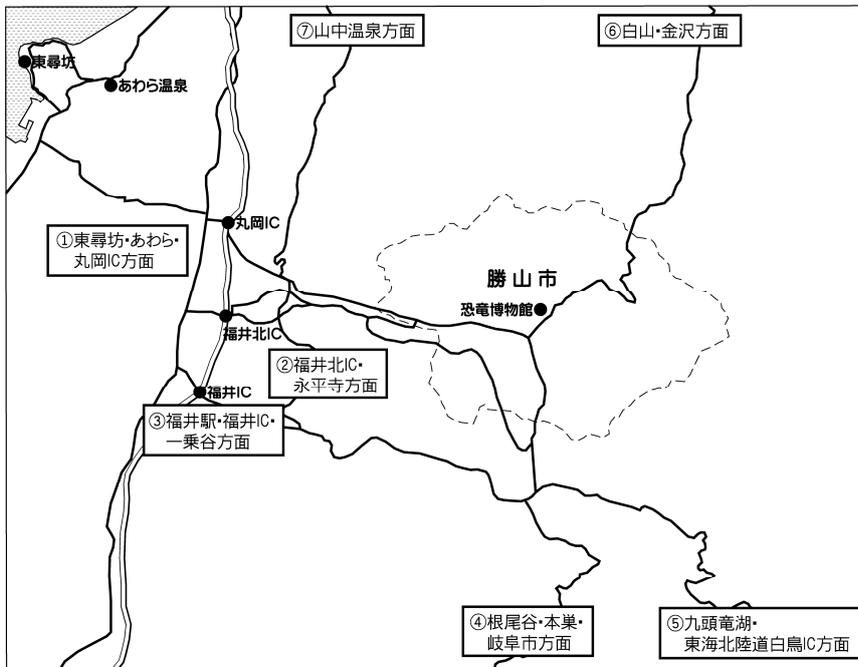


図7 調査票の裏面に
載せたルート図

表2 往路・復路の利用ルート

ルート	往路	復路	往復同じ
①東尋坊・あわら・丸岡IC	30	26	9
②福井北IC・永平寺	147	117	96
③福井駅・福井IC・一乗谷	50	39	27
④根尾谷・本巣・岐阜	5	5	3
⑤九頭竜湖・白鳥IC	45	18	14
⑥白山・金沢	34	32	18
⑦山中温泉	18	10	3
その他、わからない、未定	9	91	-
合計	338	338	170

資料:アンケート調査をもとに作成

4) 往路・復路の利用ルート

自家用車またはバイクで来館した 338 名には、図 7 を見せながら往路と復路の利用ルートを尋ねた。復路については「その他、わからない、未定」が 91 名もいた(表 2)。復路は当日の天候や混雑状況等を確認してから決める人が多いものと考えられる。

往復とも恐竜博物館に最寄りのインターで乗り降りする「②福井北 IC・永平寺方面」を利用した人は 96 名で、全体の 28.4% を占めた。一方、愛知県からの来館者は 28.2%、石川県からの来館者は 23.9% が往路と復路で別のルートを選択していた。これは、両県と恐竜博物館とを往復するルートが複数あり、選択の幅があるためと考えられよう。

さらに、愛知県から自家用車またはバイクで来館した 80 名を詳細に考察すると、往復とも「②福井北 IC・永平寺方面」を利用した人は 22 名(愛知県全体の 27.5%)で、全体の比率と大差がなかった。一方、「⑤九頭竜湖・東海北陸道白鳥 IC 方面」を往復とも、あるいは往復のいずれかに利用した人 27 名いたが、このうち往復とも⑤を利用した人は 6 名に過ぎず、往路・復路のいずれかを東海北陸自動車道—油坂峠道路—九頭竜湖経由と、名神高速道路—北陸自動車道経由とに使い分けて、愛知・岐阜・滋賀・福井の 4 県を回遊する人が多いことが明らかになった。

また往復のいずれかに「⑥白山・金沢方面」を利用する人も 5 名いた。これらの人は金沢に立ち寄るか、白山スーパー林道を通して東海北陸自動車道の白川郷 IC で乗降するものと考えられる。東海北陸自動車道と北陸自動車道を利用して東海、北陸地方を回遊する人が増えれば、同じ高速道路で単純往復する人よりも立ち寄り先や宿泊日数が増え、そこでお金を落としてくれる可能性が高くなるといえよう。

5) 来訪回数

来館者 389 名を博物館への来訪回数別にみると、はじめてが 285 名(73.3%)、2 回目以上が 103 名(26.5%)、無回答が 1 名(0.3%)となり、リピーターは全体の 4 分の 1 強に過ぎないことが明らかになった。リピーターが再訪した理由は、「子どもが恐竜好きだから」(回答数 28)、「子どもに見せたい」(8)、「楽しかったから」「発掘体験がしたいから」(各 4)の順であり、子どもに「また来たい」と思わせることが、大人のリピーターを増やすことにも繋がると思われる。

6) 宿泊日数・宿泊地

来館者 389 名を宿泊日数別にみると、日帰りが 194 名で 49.9% を占めていた。以下は、1 泊が 137 名(35.2%)、2 泊が 46 名(11.8%)、3 泊以上が 8 名(2.1%)、泊数未定と無回答が各 2 名(0.5%)の順であった。調査を実施した 11 月 3 日～4 日は文化の日を挟んだ 3 連休の初日と 2 日目にあた

表3 アンケート対象者の宿泊地とのべ泊数

選択肢		のべ泊数	選択肢		のべ泊数
福井県	福井市内	55	石川県	金沢市内	7
	三国・あわら温泉	40		片山津温泉	6
	勝山市内	22		山代温泉	6
	越前大野	2		山中温泉	5
	越前海岸	5			
	敦賀市内	5			

注 1)無回答は省略した。

2)2泊以上で宿泊地が日ごとに異なる場合があるため、のべ泊数を示した。

資料:アンケート調査をもとに作成

るため、通常の土・日よりは泊数が多めになるのがふつうである。しかし、実際には日帰りが半分を占めており、恐竜博物館以外の観光地を回る時間がない人が多いことがうかがえた。

次に宿泊地をみると、勝山市内はのべ22泊、隣接する越前大野は2泊に過ぎず、恐竜博物館から1時間近くかかる福井市内(55泊)や三国・あわら温泉(40泊)に宿泊する人が目立った(表3)。また、福井県内には宿泊せず、金沢市内や加賀温泉郷の片山津・山代・山中温泉に宿泊する人も少なからずみられた。

7) 恐竜博物館以外の立ち寄り先(複数回答)

恐竜博物館以外で立ち寄る観光地は、永平寺(回答数54)と東尋坊(50)が突出していた。以下はあわら温泉(24)、越前松島水族館(20)、金沢(16)、一乗谷朝倉遺跡(13)、白山麓・白山スーパー林道(10)の順となっており、東尋坊と恐竜博物館を結ぶ動線上と、金沢市方面に向かう動線上に主な立ち寄り地が集中していた(図8)。勝山市内の観光地は、越前大仏(5)、平泉寺白山神社(4)、勝山城と勝山市街(各2)に過ぎず、立ち寄る人が極めて少ないことが明らかになった。

一方、「恐竜博物館しか立ち寄らない」という回答が127にのぼった。他の場所に立ち寄らない場合、複数回答になることはあり得ないので、389名中127名(32.6%)が、博物館以外のどこにも立ち寄らずに帰宅すると考えてよい。

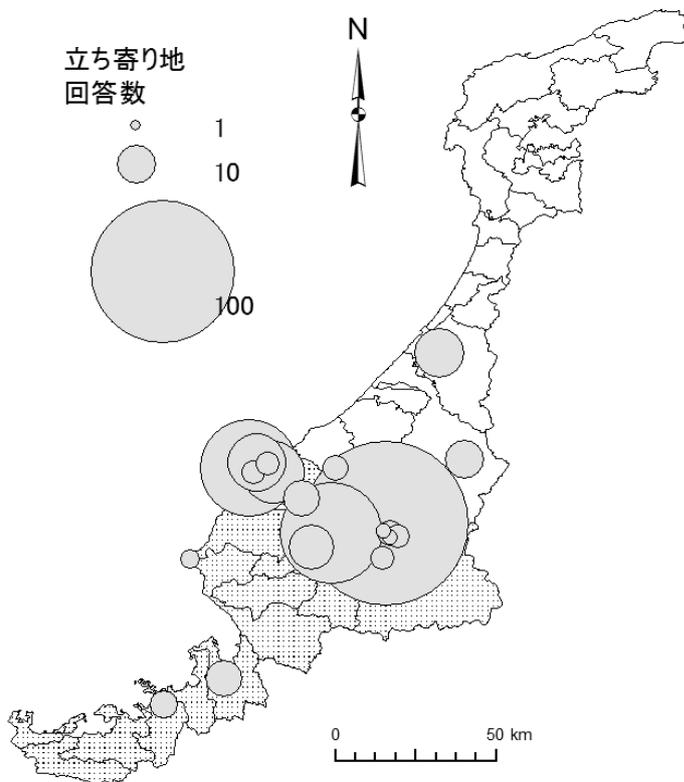


図8 恐竜博物館以外の観光地への立ち寄り状況

(アンケート調査をもとに作成)

8) お土産の購入場所(複数回答)

お土産の購入場所は、永平寺(回答数 15)と東尋坊(10)以外は2ヶ所のところがなく、福井県内と石川県の各地に分散していた。一方、「恐竜博物館以外のみで購入する」という回答が121にのぼった。立ち寄り先と同様に複数回答になることはあり得ないので、389名中121名(31.1%)が、博物館以外ではお土産を買わないものと考えてよい。

IV 調査結果から見えてきた問題点とその要因

本来、博物館・美術館等の文化施設がもたらす経済効果には、入館料収入や館内での物販・飲食による直接的な効果と、来館者が館外で飲食や宿泊をし、近隣の観光地を巡り、お土産を買う、といった観光行動をとることによって地域にお金が落ちる間接的な効果とがある。博物館が地域の活性化に役立つためには、当然、間接的な効果が大きくなることが望ましい。

しかし、今回の調査結果から見えてきたのは、①来館者の86.4%が日帰り圏である東海・北陸・近畿地方に居住していること、②実際に来館者のほぼ半数が日帰りであり、宿泊する場合でも勝山市内には泊まらないこと、③来館者の約3分の1は恐竜博物館にしか立ち寄らない、すなわち他の観光地にはまったく立ち寄らないこと、④来館者の約3分の1はお土産も恐竜博物館でしか買わないこと、の4つである。極端な言い方をすれば、恐竜博物館の入館料や館内での物販・飲食による直接的な経済効果しか得られていないことになる。

こうした状況に陥った要因として、三つの点があげられる。第一は、恐竜博物館と地域との関係が希薄であり、恐竜博物館が地域のまちづくりやジオパーク活動のなかで、どういう役割を果たすのかが不明確な点である。このことは、第19回ジオパーク委員会で行われた再認定審査の結果報告でも指摘されているとおりである。

第二は、観光行動が博物館に一極集中してしまっている点である。館内にレストランやショップを作ってしまったことによって、すべての観光行動が館内で完結してしまい(図9)、勝山市にある他の観光地や近隣観光地に足が向かなくなってしまったと考えられる。これは、温泉街にあったホテル・旅館が、館内に遊戯施設やお土産コーナー等を設けたために、付近の温泉街が寂れてしまったことと似通っている。

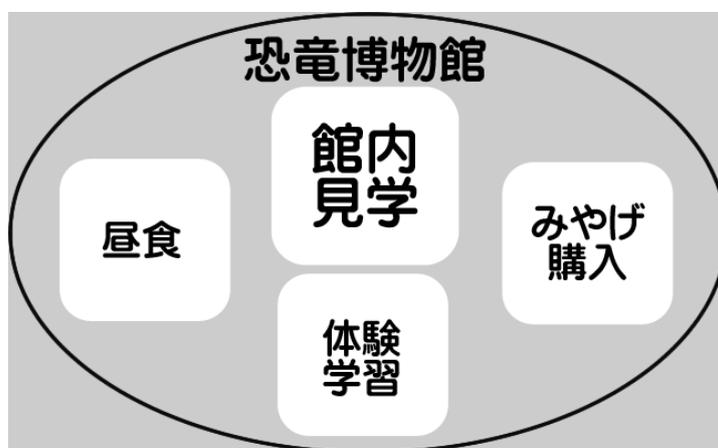


図9 恐竜博物館内での行動完結

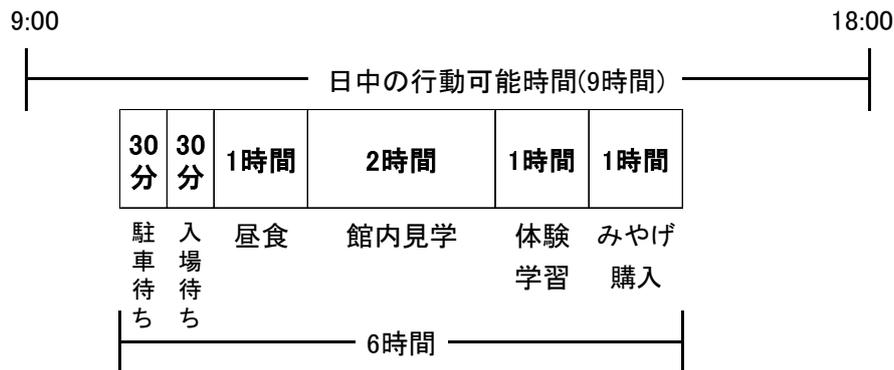


図 10 恐竜博物館来館者のタイムスケジュール(モデル)

(博物館での実地踏査をもとに作成)

第三は、博物館での滞在時間が長すぎる点である。ここで、恐竜博物館来館者のタイムスケジュールを考えてみよう(図 10)。広大な展示空間をもつ恐竜博物館では、子ども連れがゆっくり見ると、見学だけで2時間程度を費やしてしまう。繁忙期の週末には、駐車待ちや券売機待ちの行列も発生する。さらに館内で昼食をとり、体験学習をし、混雑するショップでお土産を買うと、6時間程度を館内で過ごしてしまうことになる。日中の行動可能時間が9時から18時までだとすれば、恐竜博物館に行って帰ってくるだけで精一杯で、他の観光地に立ち寄る時間的余裕はない。

V おわりに—地域の活性化に向けた恐竜博物館の役割—

前章で述べた問題点を整理すると、恐竜博物館は自らの施設を充実させ、館内での滞在時間が長くなればなるほど、来館者の行動が博物館内で完結してしまう。この結果、勝山市や周辺地域に及ぼす間接的な経済効果が小さくなり、地域社会との関係も希薄になっていくと考えられる。

こうした状況を脱するためには、博物館自体が全てを抱え込むのではなく、「地域を紹介し、地域をつなぐ」インフォメーション・センターの役割を果たしていく必要があるといえよう。そのイメージを示したのが図 11 である。

恐竜博物館のような自然科学系の展示施設は、人々が館内で学習や体験をする「学びの場」としての役割とともに、フィールドでみられるさまざまな事象を紹介して、フィールドへ見に行かせる役割をもっていると考えられる。ジオパーク地域のなかに存在する恐竜博物館の場合、見に行かせる対象は「ジオサイト」ということになる。

一方、恐竜博物館には、地域に間接的な経済効果をもたらしていくという命題もある。そのため、ジオパークだけでなく、街歩きや宿泊施設、みやげ物店、飲食店などに来館者を導く観光案内機能を、博物館内か博物館の駐車場周辺に置く必要がある。

勝山市内で市外から来た人がもっとも集まる場所は、恐竜博物館に他ならない。にもかかわらず、博物館周辺に観光案内所はない。これではせつかくの「ビジネスチャンス」をみすみす逃してしまうことになる。博物館と市、観光協会、まちの人々が一体となって、人が集まる博物館周辺で、勝山や近隣にある観光地や観光施設の存在を紹介し、その魅力を伝える必要がある。一方、

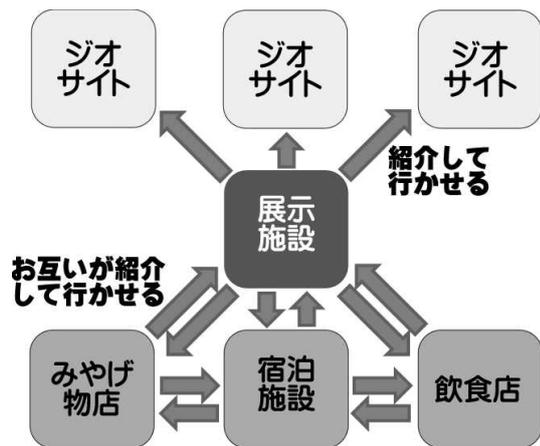


図 11 「地域を紹介し、地域をつなぐ」イメージ

市街にある観光関連施設や店舗でも、お互いの店の魅力や博物館の魅力を紹介しあう「双方向」の取り組みを行っていくことが、今後の勝山の発展に結びつくと考えられる。

本稿は、平成 25 年度「観光調査・分析法」で実施した福井県立恐竜博物館での観光客動向調査(2013 年 11 月 3～4 日)の成果をもとに作成した。内容の一部は「北陸新幹線の開業に向けた新川地区のツーリズムセミナー 第 1 回」(2013 年 12 月 15 日、うなづき友学館)にて報告を行った。「恐竜博物館観光調査グループ」に参加した学生は下記のとおりである。

【参加学生】

有澤 早紀、上野 ほのか、大田 悠美子、澤田 莉奈、島村 悠、清水 爽香、白石 理奈、瀬戸 奈瑠美、善光 美月、東海 遥果、長田 咲季、野口 陽香、半沢 学人、前里 梨花、松井 乗衡、森内 晴香、森岡 勇貴、山本 早織(以上 2 年)龍 佳怡、名取 大地、野呂 瑞季(以上 3 年)

調査の実施にあたっては、福井県立恐竜博物館総括研究員の後藤道治先生、NPO 法人 恐竜のまち勝山応援隊、富山県立山カルデラ砂防博物館にご協力いただいた。末筆ながらここに記して厚く御礼申し上げます。

注および参考文献

- 1) 定義は、小学館「デジタル大辞泉」(<http://www.daijisen.jp/digital/index.html>)を参照した。
- 2) 日本ジオパークネットワークのホームページによる。(<http://www.geopark.jp/>)
- 3) 2013 年 9 月 24 日の第 18 回ジオパーク委員会では 7 地域が認定され、「とちろ鹿追地域」が保留となったが、その後運営体制等の改善が確認されたため、12 月 16 日の第 19 回ジオパーク委員会で新規加盟が認められた。
- 4) 再認定審査は 4 年ごとに行われる。初の条件付き認定となった「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」に対しては、2 年後に問題点が改善されているかどうか再審査し、その結果を見てジオパークとしての継続を判断することとなった。
- 5) 日本ジオパーク再認定審査結果報告で示された「審査で明らかとなった各ジオパークの活動状況の概要」の原文は以下のとおり。
10 年来エコミュージアムとして行われてきた地域力アップの活動を背景にして、新たな切り口でジオツアーが行われ始め、NPO やリゾート施設との連携も出てきた。しかし、勝山市のまちづくりの中でのジオパークの位置づけ、エコミュージアムとの関係が明確でなく、両者が別々に運営されることにより地域の自然・文化資源の一体的な活用が不十分となっている。年間 60 万人を集客する恐竜博物館を含めた地域の各種資源を、勝山市民がジオパークでどのように活かすか、市民、市、県など関係者で十分に話し合う必要がある。
- 6) 中澤純治、文化公共施設の経済評価分析－滋賀県立琵琶湖博物館を例として－、政策科学 8-1(2010)、133-148
- 7) 筒井隆志、文化・芸術関連施設の地域活性化効果～美術館を例として～、経済のプリズム 104(2012)、11-26
- 8) 2010 年 7 月 8 日付、日本経済新聞朝刊による。
- 9) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークホームページによる。(<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/geopark>)
- 10) 福井県立恐竜博物館ホームページによる。(<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/guide/welcome.html>)
- 11) 福井県立恐竜博物館のプレスリリースによる。